

【第17課】 インタビューの仕方

1) インタビューに必要な技術

効果的にインタビューをするには、**事前の準備**が極めて重要です。相手のことや聞きたい話題について予備知識なしに質問するのは、単に失礼なだけでなく、効果的なインタビューにもなりません。相手のことを知らずに話してよいのは**黒柳徹子**さんだけです。徹子さんは番組の最後まで何もわからっていないこともありますが、あの人はそれが芸風なので許されています。それはあくまでも例外と認識する必要があります。

また、インタビュー中には、事前の準備で想定していないような流れになることもあります。また、意外なキーワードが飛び出す場合もあり、**適切なツッコミや質問を入れる臨機応変な対応**が必要です。

自分から話してくれる話し手なら楽なように思えますが、しきりに脱線して收拾が付かない場合もあります。逆に、返事や相づち程度しか帰ってこない相手もいます。そのような場合の対処法を身につけることも必要です。

テレビにしろネット動画配信にしろラジオにしろ、生放送の場合には、そもそも**話し手を選ぶ**必要があり、放送事故は何としても避けなければならない最重要課題です（※うっかり下手な話し手を出演させて炎上した場合の適切な謝罪・対応方法については24課で学びます）。

文章や映像でインタビューをまとめる際には、**適切な編集**が必要です。インタビューの内容をそのまま文字起こししたものは、資料的な価値はありますが、読み物としては極めて読みにくく、また読者にも伝わらないものとなります。場合によっては前後を入れ替えたり、整理したりする必要があります。もちろん、その修正については**話し手との協働**が不可欠です。

インタビューには、これらの技術が必要であるということをまず押さえてください。

また、インタビューにおいて、**相手を尊重する意識が必要**です。必ずしも尊敬できないと考えていたり、相手の悪事を糾弾しようとするとあっても、一定の敬意を払い、相手の立場を損なわないようにすることは当然と言えるでしょう。かつては「相手を怒らせて本音を引き出す」という技術がまことしやかに伝えられたこともありますが、それは当検定では準一級以上の合格者のみに許される高等技術であることを押さえておく必要があります。

2) インタビューの準備

では、インタビューにはどのような準備が必要でしょうか。

- 相手について事前に充分に調べて知っておく
- 相手の著書があれば事前に読む（できるだけ話題に近いもの、新しいもの）
- インタビューで聞きたい項目をできるだけ多くピックアップする
- インタビューの質問事項をまとめて、相手にも事前に伝えておく

これらは原則として当然行なっておくべき事柄です。「あなたは何やってる人なの？」という質問をしてよいのは黒柳徹子さんだけであって、インタビュアーとして通常は失格といえます。